

リハビリテーションにおける ICF の活用

Implementation of ICF in rehabilitation

国際生活機能分類（International Classification of Functioning, Disability and Health；ICF）は、2001年5月に世界保健機関（World Health Organization；WHO）総会で採択されて以来、普及を促進するための研究開発が行われてきており、現在では2006年にWHO国際統計分類（WHO Family of International Classification；WHO-FIC）ネットワークの中に設置された専門家会議である生活機能分類グループ（Functioning and Disability Reference Group；FDRG）において、その改善や普及啓発、具体的な活用事例などの活発な議論が続けられている。また、ICFはわが国においても「疾病」と「生活機能」の両面からの評価を可能とする共通言語として注目を集め利用が進み始めている。こうした動向をふまえ、本特集では、各分野でのICFの具体的な活用事例に焦点をあて、ICFを実際に活用している専門家に、各方面からの解説をお願いした。

ICF の現状と課題 三上直剛氏ら 5

作業療法には、対象者を「障害者」として固定的に捉えるのではなく、対象者を「生活者＝生活する主体」として捉え、さまざまな治療・援助・支援を行うという基本的な視点が備わっている。本稿では、日本作業療法士協会の取り組みを紹介し、生活機能の考え方の概説をしている。

ICF コアセット日本語版 山田 深氏 13

ICF コアセットとは、国際生活機能分類の分類全体から選択された複数のカテゴリーの組み合わせであり、ICFの利用拡大を促進するためのツールとして開発が進められてきた。筆者は2015年に出版された「ICF コアセット臨床実践のためのマニュアル」の翻訳に携わっている。本稿では、ICF コアセットの開発の背景、ICF コアセットマニュアル、活用、限界などについて解説がされている。

ICF に基づく全般評価システムの作成と臨床活用 向野雅彦氏 19

筆者らは、ICFの日本での導入を促進するにあたって、国際的に普及しつつあるICF コアセットの枠組みを取り入れ、コアセットの研究を主導してきたICF research branchと共同でデータ収集の仕組みについての検討を行っており、本稿では、ICFの枠組みを用い、直接評価点をつける仕組みと既存のスケールを用いた情報収集の仕組みの両方を紹介している。

地域の事例検討会における ICF の活用 川邊 循氏ら 23

一般社団法人日本脳損傷ケアリングコミュニティ学会の研究委員会の1つに「コミュニティにおける脳損傷者の回復プログラムと機能評価研究部会」がある。本稿では、研究部会は独自に改編した事例検討シートである「ICFを基に作成した事例検討シート（nearly-ICF；n-ICF）」について、その作成の経緯と実際の活用方法について紹介している。

認知症患者の作業療法における ICF 活用事例 村井千賀氏ら 31

石川県立高松病院は精神科単科の県立病院であり、400床の病床のうち、50床を認知症対応の急性期病棟として運用している。同院の精神科作業療法では、精神科作業療法計画を作成する際、精神機能をはじめとする生活機能を評価および残存能力のアセスメントツールとして、ICFを活用している。本稿では、ICFを活用した作業療法計画策定の取り組みと実際の事例を紹介している。

小児リハビリテーション領域における ICF の活用 上出杏里氏ら 37

小児リハビリテーション領域における診療の目的は心身機能の改善に限らず、発達段階に応じて日常生活全般を遂行するのに必要な能力を獲得し、社会参加可能な環境を整備することである。小児医療の現場においてもICFを十分に活用し、「活動と参加」の質自体の変化に着目する必要がある。筆者らは、小児医療における支援内容や成果の指標として「活動と参加」について反映された簡易的評価尺度の開発を進めてきた。本稿では、その活用について事例を交えて紹介している。

書評	高次脳機能がよくわかる一脳のしくみとそのみかた（評者：片山容一）..... 44
	《理学療法 NAVI》この30題で呼吸理学療法に強くなる（評者：上月正博）..... 52
お知らせ	第7回日本がんリハビリテーション研究会 12
	日本リハビリテーション連携科学学会第19回大会 51
	2018年度成人ボバーズ概念に基づく成人中枢神経疾患に対する評価と治療 64